

(添付資料)

緊急安全対策等の報告書における誤りの有無の調査等について（報告）
（概要）

1. 報告書における誤りの有無の調査

(1) 対象報告書

平成23年9月15日付け原子力安全・保安院指示文書に対応して当社が調査すべき報告書は、以下の指示文書に基づく報告書である。

	当社報告書名	原子力安全・保安院指示文書名
1	泊発電所における緊急安全対策について（実施状況報告書）（補正版）	平成23年3月30日付け「平成23年福島第一・第二原子力発電所事故を踏まえた他の発電所の緊急安全対策の実施について（指示）」
2	泊発電所の外部電源の信頼性確保に係る報告書	平成23年4月15日付け「原子力発電所及び再処理施設の外部電源の信頼性確保について（指示）」
3	平成23年福島第一原子力発電所事故を踏まえたシビアアクシデントへの対応に関する措置に係る実施状況報告書	平成23年6月7日付け「平成23年福島第一原子力発電所事故を踏まえた他の原子力発電所におけるシビアアクシデントへの対応に関する措置の実施について（指示）」
4	泊発電所の外部電源の信頼性確保に係る開閉所等の地震対策について（報告）	平成23年6月7日付け「原子力発電所等の外部電源の信頼性確保に係る開閉所等の地震対策について（指示）」

(2) 調査方法

対象報告書で、報告内容の妥当性を判断する上で必要な記載に対して、誤りの有無を調査した。

調査に当たっては、記載の根拠となる図書等を収集整理した上で誤りの有無を確認し、更にもその作業を行なった以外のものも記載内容全般について確認をすることとした。

また、確認の結果、誤りが発見された場合は、正しい数値等を用いて報告内容の妥当性について再確認を実施するとともに、原因の究明と再発防止策の策定を行うこととした。

(3) 調査結果

調査の結果、平成23年5月2日に提出した報告書「泊発電所における緊急安全対策について（実施状況報告書）（補正版）」に対策の内容及びその妥当性評価に影響を与えないごく軽微な誤りが確認された。

なお、それ以外の報告書における誤りは確認されなかった。

3. 報告書における誤りの内容と影響の有無

「泊発電所における緊急安全対策について（実施状況報告書）（補正版）」における誤りの概要と影響の有無は以下のとおりである。

正誤表を別紙に示す。

誤りの概要	影響の有無
添付資料－5（8／8）：表安全系計装用電源容量の数値が、元となる設計図書記載値と相違している。	移動発電機車の必要発電機容量を決定する際には、全交流電源喪失時に発電所の運転監視に必要な直流負荷に給電する充電器の定格容量に基づき決定しており、充電器の定格容量は誤りがないことを確認していることから問題はない。 なお、本表は上記の直流負荷の一部となる安全系計装用電源容量を、元となる設計図書から転記し、参考に掲載したものである。
添付資料－8（3／6）：グラフ記載された日数について、7日と記載するべきところを2日と記載している。	グラフの横軸（日数）に、補足情報として期間日数を枠で囲んで強調表示した日数の誤記であり、グラフ以外には使用していないため問題はない。

4. 誤りが発生した原因の究明と再発防止策

(1) 推定原因

a. 添付資料－5（8／8）

1号機については、当社作成担当者が報告書を作成する際、安全系計装用電源容量の記載順が、当該報告書中に記載した表と、元となる設計図書で相違していることに気づかずに誤って記載した。

2号機については、1号機の誤りに加えて、「その他」欄の数値を算出する際に、

手計算を誤ったため、「その他」及び「合計」の両方に誤った数値を記載した。

3号機については、当社作成担当者が資料を作成する際、元となる設計図書で安全系計装用電源負荷容量は2ページに亘り記載されているため、各々のページに記載されている表の値を合算して記載すべきところを、2ページ目の表の値のみを使用して誤って記載した。

何れの記載内容についても、作成担当者以外の者の確認が不十分であったこと（ダブルチェックが十分に行われていなかったこと）、設計図書等の関連する図書などとの突合せ確認が行われていなかったこと（確認方法が明確になっていなかったこと）から、誤記が発見・修正されず、後工程へリリースされたものとする。

b. 添付資料-8（3/6）

当社作成担当者が、グラフの横軸（日数）に補足情報として期間日数を枠で囲んで強調表示したが、日数を誤った。

記載内容については、作成担当者以外の者の確認が不十分であったこと（ダブルチェックが十分に行われていなかったこと）から、誤記が発見・修正されず、後工程へリリースされたものとする。

上記 a 項、b 項より、今回の記載誤りについては、記載内容を確認する体制及び確認方法が不明確であったことが原因であると推定された。

(2) 再発防止策

記載内容を確認する体制及び確認方法が不明確であったことを踏まえ、今後、社外に提出する報告書で原子力発電所の安全性に係るものについては、今回行った確認と同様のダブルチェック体制及び方法で確認することとする。

以上

「泊発電所における緊急安全対策について（実施状況報告書）（補正版）」の正誤表

誤							正							備考
添付資料－５（８／８）							添付資料－５（８／８）							
安全系計装用電源							安全系計装用電源							
発電所	トレン	制御系計器ラック	保護系計器ラック	その他 *	合計 (kVA)	ユニット合計 (kVA)	発電所	トレン	制御系計器ラック	保護系計器ラック	その他 *	合計 (kVA)	ユニット合計 (kVA)	
泊1号機	A 計装用電源	2.0	2.0	5.2	9.2	36.1	A 計装用電源	2.0	2.0	5.2	9.2	36.1		
	C 計装用電源	2.0	2.0	5.0	9.0		B 計装用電源	2.0	2.0	5.0	9.0			
	B 計装用電源	2.0	2.0	5.2	9.2		C 計装用電源	2.0	2.0	5.2	9.2			
	D 計装用電源	2.0	2.0	4.7	8.7		D 計装用電源	2.0	2.0	4.7	8.7			
	A系(A,C)合計	4.0	4.0	10.2	18.2		A系(A,C)合計	4.0	4.0	10.4	18.4			
	B系(B,D)合計	4.0	4.0	9.9	17.9		B系(B,D)合計	4.0	4.0	9.7	17.7			
泊2号機	A 計装用電源	2.0	2.0	5.2	9.2	34.9	A 計装用電源	2.0	2.0	5.2	9.2	36.1		
	C 計装用電源	2.0	2.0	5.0	9.0		B 計装用電源	2.0	2.0	5.0	9.0			
	B 計装用電源	2.0	2.0	4.5	8.5		C 計装用電源	2.0	2.0	5.2	9.2			
	D 計装用電源	2.0	2.0	4.2	8.2		D 計装用電源	2.0	2.0	4.7	8.7			
	A系(A,C)合計	4.0	4.0	10.2	18.2		A系(A,C)合計	4.0	4.0	10.4	18.4			
	B系(B,D)合計	4.0	4.0	8.7	16.7		B系(B,D)合計	4.0	4.0	9.7	17.7			
泊3号機	A 計装用電源	—	3.4	10.7	14.1	56.4	A 計装用電源	—	3.4	12.5	15.9	62.2		
	C 計装用電源	—	4.2	9.9	14.1		B 計装用電源	—	3.4	12.5	15.9			
	B 計装用電源	—	3.4	10.7	14.1		C 計装用電源	—	4.2	11.2	15.4			
	D 計装用電源	—	4.2	9.9	14.1		D 計装用電源	—	4.2	10.8	15.0			
	A系(A,C)合計	—	7.6	20.6	28.2		A系(A,C)合計	—	7.6	23.7	31.3			
	B系(B,D)合計	—	7.6	20.6	28.2		B系(B,D)合計	—	7.6	23.3	30.9			
注 他号機と整合を図り、B,Cを入れ替えたもので誤りではない														

誤	正	備考
<p style="text-align: center;">添付資料-8 (3/6)</p> <p style="text-align: center;">蒸気発生器 2 次側および使用済燃料ピットへの必要補給水量の積算</p>	<p style="text-align: center;">添付資料-8 (3/6)</p> <p style="text-align: center;">蒸気発生器 2 次側および使用済燃料ピットへの必要補給水量の積算</p>	